



国民の森林・国有林

奄美大島

金作原国有林で利用状況調査

きんさくばる

【鹿児島森林管理署】

今年7月に世界自然遺産登録が見込まれている奄美大島の金作原(きんさくばる)国有林で、奄美市、鹿児島県、奄美群島国立公園管理事務所、鹿児島森林管理署の4者からなる奄美大島利用適正化連絡会議事務局により、エコツアーなどの利用状況調査を行いました。

金作原国有林には奄美大島を代表する照葉樹林が分布し、市街地からもアクセスしやすいことから、エコツアーの人氣スポットとなっています。約900mの遊歩道を散策するとスダシイやオキナワウラジロガシの巨木、木生シダのヒカゲヘゴ、アカヒゲやルリカケスの野鳥の声など、普段ふれることのない亜熱帯性の動植物を身近に観察することができます。

近年、金作原国有林では利用者が増加し、自然環境への負荷、利用者の自然体験の質の低下が心配されるようになりまし

た。このため民間事業者を含めた奄美大島利用適正化連絡会議では利用者エコツアーガイドの同行を義務づけるなど、適正な利用に向けたルールを定め、平成31年2月からその試行が始まっています。

今回の調査はルールが適正に守られているか、利用者の混雑が解消されているかなどを確認し、今後のルール改善に役立つことを目指

す。具体的として、ゴールデンウィーク期間中の4月30日から5月5日まで行いました。調査の結果、合計339人の利用があり、ほとんどの利用者はガイド同行で訪れるなど利用ルールは浸透してきたようですが、中にはルールを知らずにレンタカーで訪れる利用者も見

れました。今後世界自然遺産として適正に利用されるよう、引き続きルールの周知が必要であることを事務局間で再確認しました。ゴールデンウィーク期間中、奄美大島はおおむね好天に恵まれ、国内各地から訪れた利用者はガイドの解説に耳を傾けながら遊歩道沿いの森林を散策し、巨大なクワズイモの葉の下で記念写真を撮るなど自然体験を楽しんでいる様子でした。



遊歩道のヒカゲヘゴ



ガイド車両の駐車の様子

農林水産省出先三事務所（佐賀県内） 自然災害に備えて情報交換

【佐賀森林管理署】

6月1日、農林水産省出先三事務所（佐賀県内）による自然災害発生時の対応を共有することを目的として、九州農政局佐賀県拠点（佐賀支局）4名、筑後川下流右岸農地防災事業所1名、佐賀森林管理署から白石健二署長、植薄和彦地域林政調整官、佐藤昭晴総括森林整備官が出席して情報交換を行いました。

はじめに、佐賀県拠点の茂木地方参事官から「九州北部



情報交換の様子

自然災害発生時は、各出先三事務所とも迅速な状況の把握が求められる一方、集められた情報をもとに被災の規模、どのような支援策が必要であるか等情報共有を行うことと、情報収集の手法や体制整備について確認しました。

当署としましても、署・森林事務所並びに国有林防災ボランティアの協力もいただく



佐賀署の出席者は写真右側の席

地方は既に梅雨に入り、自然災害に備え、佐賀県内の本省出先三事務所が情報収集と支援策の共有が重要です。活発な情報交換をお願いします。」と挨拶がありました。

等、迅速かつ機動的に情報収集に取り組みることとしています。

国有林防災ボランティア活動 打ち合わせ

【佐賀森林管理署】

6月16日、佐賀森林管理署会議室において、国有林防災ボランティア協定者の（二社）九州林業土木協会の、牟田建設（株）、（株）中野建設、野田建設（株）、山口建設（株）の4社に出席いただき、佐賀森林管理署からは、白石健二署長をはじめ、治山事業、林道事業の各担当者等7名が出席し、自然災害に備えた国



挨拶される白石署長

有林防災ボランティア活動の打ち合わせを行いました。

はじめに、白石健二署長から「梅雨期の集中豪雨等による被害発生時に、迅速に被害状況を把握することが必要になります。今年は例年より3週間程早く梅雨入りし、今後、梅雨前線が活発化することが予想されます。ボランティア活動の派遣をお願いすることになった場合、皆様方には安全に活動していただくことが重要です。本日は限られた時間ではありますが、活動内容や連絡体制の打ち合わせをお願いします。」と挨拶を述べました。



打ち合わせの様子

つづいて、佐藤昭晴総括森林整備官から、本日の打ち合わせの趣旨と自然災害が発生した場合の、国有林の位置関係や人家等へ被害の有無、応急対策、活動エリアなど、現地調査を行う際の留意事項を説明しました。

本日の活動内容の打ち合わせ（備え）が、非常時に迅速かつ機動的な活動につながることも、当署においても管内の巡視を継続し、地域住民の安全確保に取り組みこととしています。

雲仙田原レクリエーションの森 管理運営協議会が開催される

【長崎森林管理署】

6月21日、田代原トレイルセンターにおいて、雲仙田原レクリエーションの森管理運営協議会を開催されました。当日は、環境省・長崎県・雲仙市・観光協会など関係する組織・団体等が14人ほど集まり、今年度の事業計画等について意見交換を行いました。

同協議会は行政主導ではなく、昨年全国レクリエーション

ン協会会長賞を受賞したNPO法人「奥雲仙の自然を守る会」が事務局となり、田代原風致探勝林など雄大な自然環境や牧場立地を最大限活用し、毎年度、ミヤマキリシマの生育に支障となる樹木の除去や、地元小学生を対象にした森林環境教育、看板の設置などを行ってきました。

長崎森林管理署では、ひとりでも多くの市民に大自然に親しみ、日常から少し離れてリフレッシュできる環境を提供するため、今年度も景観保全のための修景伐採



地元小学生も作業をお手伝い



ミヤマキリシマの保全作業の様子

などを計画し、地域と連携しながら奥雲仙の美しい景観の維持に努めていくこととしていきます。

また、当協議会の取組は地域と連携した「日本美しの森お薦め国有林」における景観保全の取組として今年度の森林・林業白書に掲載されます。

上益城林業・木材産業 振興協議会総会が開催

【熊本森林管理署】

6月28日、熊本県上益城地域振興局会議室において、当署、熊本県、関係市町村、林業・木材産業の関係団体が参



総会の様子

加して、令和3年度上益城林業・木材産業振興協議会の総会が開催され、当署から川畑充郎署長、内村圭一総括地域林政調整官、松本輝生地域統括森林官が参加しました。

総会では会長の梅田穰山都町長の挨拶に続いて、川畑署長が「現在、木材価格等の状況はウッド・ショックと言われていますが、今こそ林業・木材産業の様々な課題を克服して外材から国産材にウッド・チェンジして、林業再生のウッド・チャンスにしましょう」と挨拶しました。

その後審議を行い、事務局の熊本県担当者から令和2年

度の事業報告と収支決算について、令和3年度の事業計画案と収支予算案についての提案があり、原案通り承認されました。

また、川畑署長から情報提供として、令和3年度の九州森林管理局と熊本森林管理署の重点取組事項等の説明を行い、国有林野事業の各種取組について理解を深めて頂き、総会は終了しました。

令和3年度ノカイドウ自生地の 保全活動について

【鹿児島森林管理署】

霧島連山の春を彩る花の一つ、ノカイドウの自生地を保全するために、令和3年6月2日、ノカイドウ保全対策連絡会（環境省えびの管理官事務所・鹿児島県自然保護課・霧島市・湧水町・霧島ボランティア協議会・鹿児島森林管理署）による保全活動が実施されました。当署からは牧園、霧島森林官など5名が参加し、各自、ノカイドウの自生地に被陰木の枝払いやシカネットの補修等の作業を行いました。シカネットの支柱が倒れ



保全活動の様子



参加者の皆さん

シカによる食害が見受けられる箇所や、広葉樹、マツ等に被圧されているノカイドウもありましたが、参加者の努力

により、生育環境の改善が図られたところです。今後も自然環境豊かな霧島連山のノカイドウを保護するため、定期的に保全活動を実施していくこととしています。

南那珂地区シカ侵入対策 連絡会議を開催

【宮崎南部森林管理署】

宮崎県におけるシカの生息域は拡大しており、これまで生息が確認されていなかった南那珂地区においてもシカの



連絡会議の様子

目撃情報が相次いでいます。管内（民有地含む）における捕獲実績は令和元年度は3頭、令和2年度は3頭となっており、今後シカによる農林作物被害が発生することが懸念されることから、令和3年6月10日に令和3年度南那珂地区シカ進入対策連絡会議が昨年度に引き続き開催されました。会議には、当署を含め、宮崎県環境森林部自然環境課、南那珂農林振興局、日南市、串間市、南那珂森林組合、日南造林素材生産事業協同組合、日南市有害鳥獣対策協議会、串間市有害鳥獣対策協議会、日南地区猟友会、串間市猟友

会、鳥獣保護管理員の19名が参集し、シカ侵入対策について協議しました。会議では、県内のシカによる被害状況・被害対策状況、県南地域の県の取組計画、連絡会議におけるこれまでの取組状況、今後の取組計画について報告があり、目撃情報を基に市町村森林整備計画の鳥獣害防止森林区域を変更することになりました。当署からはシカの生息状況を把握するため自動撮影カメラを設置していることや剥皮被害の状況、シカ影響簡易チェックシートを用いた針葉樹人工林におけるシカ痕跡の広域多点調査等



設置された自動カメラが捕らえたシカの写真

を報告しました。最後に、管内関係者による情報共有や合意形成等の連携を図り、シカの監視体制を強化することによりシカの侵入状況の把握及び捕獲等の対策を講じること、管内での被害を未然に防止することを確認し閉会しました。

令和3年度有害鳥獣捕獲 研修を実施

【大分西部森林管理署】

当署においては、シカによる植栽木の被害や剥皮等、深刻化するシカ被害の防止対策として、職員実行の捕獲や有害鳥獣捕獲委託事業等に取り組んでいます。

このような中、6月24日、当署森平家国有林209林班内において、今年度有害鳥獣捕獲研修修了証の有効期限が満了となっている職員等13名に対して、有害鳥獣捕獲研修を開催しました。

当日は、午前中に座学、午後にくり罠の実技研修を予定していましたが、森林官よりシカ捕獲の連絡を受け、予定を変更しシカ駆除の実技から研修を行いました。

シカ駆除を初めて体験する



座学研修の様子

受講生が多く、真剣な表情で駆除の様子を見学しました。

その後、白坂進総括森林整備官を講師に、有害鳥獣捕獲に係る法令、安全対策、シカ捕獲マニュアル、大分県鳥獣保護管理事業計画等の説明があり、捕獲にあたっての注意事項や安全確保について受講しました。

また、日田仁志森林技術指導官より、ICTを用いたほかパト（長距離無線式捕獲パトロールシステム）について説明を受け、昨年からほかパトを活用している森林官から「ワナの管理が楽になった」との感想がありました。

午後は、実技研修に移り、

玖珠森林事務所の川原博首席
森林官と木村圭文行政専門員
から、くくり罠の設置方法、
設置場所の選定等について実
技指導を受けました。

くくり罠の実技では、初め
て設置する者を中心に罠の設
置を行い受講者からは、「罠
の設置は経験を積まないと難
しい」「シカの習性を勉強し
たい」「研修を継続して行い
捕獲従事者を増やしてもらい
たい」等の感想がありました。
シカ被害を防ぐためには、
地域全体のシカ密度を捕獲に
よって下げることが不可欠で
あることから、今後において
も、今回の研修を活かして、



実技研修の様子

署全体で捕獲技術の向上とシ
カ被害対策に取り組んで行く
こととしています。

くまもと林業大学校 で講義

【熊本森林管理署】

熊本県では次世代をリード
する林業担い手の育成と確保
を目的として、平成31年4月
にくまもと林業大学校を開校
しましたが、本年度も(公財)
熊本県林業従事者育成基金か
らの依頼を受けて、川畑充郎
署長が林業政策「国有林野の
役割と具体的な取組」と題し



講義の様子

最後の質疑応答では、
森林経営管理制度のしく
みと現在の進捗状況につ
いて、熊本南部署管内の

講義では、まず林野庁全体
の組織と業務内容を説
明した後、九州森林管
理局及び当署のパンフ
レットや令和3年度の
重点取組事項等により
国有林の役割と具体的
な取組について、また
現在検討中の新たな森
林・林業基本計画案に
ついて説明し、学生た
ちは熱心に受講しまし
た。



講義される川畑署長

て、6月7日に県北校(熊本
県林業研究・研修センター)
の学生12名に対して講義を行
いました。

モーターカー講習会 を開催

【屋久島森林管理署】

当署では、平成29年8
月に熊毛地区消防組合及
び屋久島警察署の三者で、
山岳遭難事故等が発生し
た際に各機関が連携・協
力して円滑かつ効率的な
救助活動を行うことを目
的に、「山岳遭難事故発
生時の救助捜索活動に関
する協定」を締結し、当
署が対応できない場合で
も当署のモーターカーを
警察・消防に貸し出して
迅速な救助を行えるよう

「低コストモデル実証地」の
試験内容、一貫作業システム
のしくみや実施状況等について質
問が出され、学生たちの真面目
で前向きな勉強態度とこれから
の熊本県の林業を自分たちが担っ
ていくんだとの意気込みを強く
感じられ、大変頼もしい限りで
した。

にしています。昨年度は8件、
今年度は5月に1件の救助要
請があり、傷病者搬送のため
緊急に警察・消防による運行
で出動し迅速な対応が出来て
おり、関係機関や救助相手方
から感謝されています。
このようなか、本年度も協
定に基づき、屋久島警察署の
職員3名、熊毛地区消防組合
の屋久島北・南分遣所の職員
2人と4月異動により新たに
転入した署職員5人、屋久島
森林生態系保全センター1名
を対象にして、モーターカー
の運転に係る講習会を開催し
ました。

講習会は、6月17日に石原
健司副次長を講師として学科



学科講習の様子



実技講習の様子

講習と試験を行うとともに、22日以降に石原健司郎次長・岩下晃之森林整備官を講師、古川拓也森林官・山口強主事を助手として、実際の森林軌道でモーターカーの実技講習を開催し認定審査を行い、後日受講者全員に森林軌道運転認定証の交付を行うこととしていきます。当署としては、引き続き関係機関と連携・協力した人命救助活動を通じて、地域貢献できるように取り組む考えです。

OJT（安全対策）を実施

【宮崎南部森林管理署】
令和3年5月25日、新規採用者への安全対策研修を若手

職員のOJTを兼ねて現場において実施しました。

まず、松永眞弥次長から服装・装備、林内歩行、危険・有毒な動植物などの入林時の留意点や、重大災害に繋がりやすい車両事故を防止するための林道走行時の安全運転について、最近の災害事例を紹介しながら説明がありました。

その後、小城守森林技術員の指導の下、刃物の研ぎ方について説明を受け、実際に腰鉈研ぎに挑戦しました。刃先の角度を一定に保つことが難しい中、悪戦苦闘しながら研ぎ終え、研ぎ具合を確認するため恐る々刃先を指の腹に当て刃が付いているか確認していました。実際に雑かん木を伐ってみると、研修生からは「足



研いだ腰鉈の刃先確認の様子



腰鉈の取扱いの様子

場を確保しながら伐るには、体力と知識と併せて技術が必要と実感した」との感想がありました。

災害が発生した場合の緊急連絡体制や連絡方法について確認しましたが、携帯電話の通信状況が悪い現場が多いため、衛星携帯電話を活用した緊急連絡についても体験しました。

また、点検を兼ねて山火事消化用のジェットシューターの使用方法についても学びましたが、初めての体験となり背負い式は思った以上に両肩への重圧と意外と長い時間放水できることに驚いた様子でした。

今回は、主に新規採用者を対象としたOJTで基本的な



ジェットシューターの取扱いの様子

安全対策の指導を実施したところですが、採用2年目から5年目の若手職員も参加し、これまでのヒヤリ・ハットの体験談などを若手職員から新規採用者へ話してもらい、実習時には後輩職員へ助言する場面も見られるなど、若手職員の成長が伺える1日となりました。

今後も、工夫しながら効果的なOJTの実施に努め、若手職員の育成に努めて参ります。

緊急避難訓練

【宮崎北部森林管理署】
去る6月22日、近年いつ発生してもおかしくないと言われている日向灘地震、南海ト



歩いて避難場所へ移動中

ラフ地震に備えて、健康安全管理計画書に基づく年2回の緊急避難訓練を実施しました。当日は梅雨の合間の晴れた日で大変暑い中、職員及び非常勤職員が防災リュックを各々背負い、1km程の指定避難場所まで歩きました。



避難場所の確認の様子

本年4月以降、初訓練の職員も避難経路及び所要時間を確認しながら、また災害時の場合どのような状況になるのかも想定しながらの訓練となりました。

今回、避難場所まで平均15分要し、息を切らず者そうでない者と様々でしたが、日頃からの多少の体力作りも必要であると実感した緊急訓練となりました。

多良岳 樹魂碑建立除幕式

【佐賀森林管理署】

6月1日、太良町森林組合主催による多良岳樹魂碑除幕式が行われ、当署から鹿島森林事務所の菅和光森林官が来賓として出席しました。当日は佐賀県の山口知事をはじめ、佐賀県議会議員、太良町長、太良町議会議員などの関係者が出席し、梅雨時期ではありましたが晴天に恵まれ開催されました。

この「樹魂碑」建立の趣旨は、森林から木材の生産と共に水資源や環境保全、



除幕式の様子

洪水の緩和など多くの恩恵を頂き生活することが出来、その森林からの恵みである伐倒した樹木の霊を祭り、感謝の意を表し、それにより適正な森林の施業管理を後世に伝えていくと共に、林業従事者の労働安全を祈願し建立されたものです。除幕式では、菅和光森林官が山口知事等と並び、来賓を代表してセレモニーに参加しました。国有林としても支援していくとともに、森林資源の循環利用、公益的機能の確保や労働災害の絶滅について改めて誓い、除幕式を終了しました。



学校周辺の水辺環境について調べ、保全と整備に取組みました。

久間 真吾さん

5月の連休を一週間ほど過ぎた日のこと、近所でホタルが飛んでいるのを見かけました。車で5分ほどの山間の小川へ行ってみると、たくさんのホタルが例年より半月ほど早い乱舞を楽しんでいました。

ホタルの舞う水辺

川の清掃活動や水質検査をする一方で、校内の植物ハウスに地下水を引き、ホタルを捕って来てミズゴケに産卵させ、かえった幼虫に子どもたちが集めてきたカワニナを与えて育てました。ある程度大きくなったら近くの条件のよさそうな川に放流して、5月には親子でホタル観賞会を行いました。川の水辺

が意識して守っていかなくては、人や生き物が安心して生きていける水を得ることはできません。湧水の出る所にはいつも地域の方々が水を入れる容器をもって通って来られます。私も親に頼まれて週2回ポリタンクを抱えて仕事帰りに水くみに立ち寄ったものでした。いつまでもおいしい水が湧き出る故郷を、ホタルが飛び交う故郷を大事にしていきたいものだと思います。

(長崎県南島原市在住)

さかんに光って飛び回る雄のホタルや枝にとまってじっとしている雌のホタルをながめながら、ふと、5年前まで小学校教員として勤めていた頃、総合的な学習の一環として「ホタルのすむ川にしよう」というテーマで環境学習に取り組んだことを思い出しました。

上流にある隣の小学校が緑の少年団を組織して山や森林の役割や保護について学んでいたことから、「昔はこの辺りでもたくさんホタルが飛んでいた」という地域の方々の話を聞いて、

保全のためには、その上流、そして川の源となる森林の保全が欠かせないことを子どもたちと学び、地域の環境をどのように守り・整備していけばよいか考えていきました。

ここ島原半島は世界ジオパークに認定された独特の地質から成り立ち、いたるところできれいな湧水が流れ出ています。水源となる森林をその上流に居住したり上流で農業を営んだりする人たち



有馬湧水ホタルの里 (南島原市)

監物台樹木園の 多様な植物



164 コマユミ(ニシキギ科)

有名な凶鑑(保育社)を調べると「種」としては掲載されておらず「枝にコルク質の翼が発達しないものを」と書かれ、品種扱いとなっています。花も実も葉もニシキギとコマユミは同じです。ちなみに「コルク質の翼が発達」したものがニシキギです。



北海道から九州まで分布して山野に普通に生えます。秋は紅葉が美しく赤い果実が遠目にも目立ち美しい。ニシキギ科で紅葉するのはこの種だけと思っています。葉は対生し、葉身は倒卵形。両面とも無毛で、縁には細鋸歯があります。



花は両性花で、5〜6月に、葉腋から集散花序を出し、6〜7mの淡緑色の花を数個つけます。花弁、雄しべともに4個。萼は4裂します。このような構成を4数性といえます。

コマユミの実は2裂して赤橙色の仮種皮に包まれた種子が2つ出てくるが、マユミの実は4裂して赤橙色の仮種皮に包まれた種子が4つ出てくる、それぞれに特徴があります。

花も実も葉もニシキギとコマユミは同じです。



森林インストラクター
安楽 行雄



振替休日です。遅くて出勤・欠勤しないようにしましょう。(オリンピック閉会式にあたります。)

▼8月8日の「山の日」といえば、九州(大分県)の「くじゅう連山」が今年の主役(第5回山の日記念全国大会)です。

7月に会議の予定を組もうと事務室のカレンダーを見ながら、22日・23日は平日だからどちらにするかなと思いつ、自分の予定を確認しようとスマホのカレンダーを見た時、「おや、22日・23日が祝日になっている。」

くじゅう連山は、ピンク色の絨毯のように咲き誇る初夏のミヤマキリシマ、山裾の草原、森林浴が堪能できる連山です。山の日には「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」ための日です。

調べてみると延期になったオリンピック開催により、7月22日が「海の日」に7月23日が「スポーツの日」に変わっていて、スマホのカレンダーが正解だった。間違えて出勤する職員がおるかもね。

ちなみに8月11日の「山の日」

も8月8日になり、8月9日が

ここを機会に登山、ハイキングにより、森林浴などで大いに山に親しんでいただき、美しい景色やきれいな空気を、おいしい水や山菜などの恵みを堪能し、体の健康作りのため心身のリフレッシュ、体力アップ、ダイエットしていただきたいと思えます。

【あ】

お知らせ

「監物台樹木園」は、熊本地震により被災した園内の監物櫓復旧工事に伴い、令和3

年6月1日から令和6年3月末まで一時休園しますのでお知らせします。

また、開園する場合は、改めてお知らせします。

(九州森林管理局のホームページにも掲載されています)